

■田畑政治ジャーナリスト。「社会体育論」を提唱し、オリンピックに生涯をかけ、東京大会を実現・成功に導いた。

たばたまさじ
子規句歌革新1898＝ 浜松市成子町で、田畑庄吉の次男に生まれる。
日露戦争終・1905＝ 7歳：小学校に入学、
小学生時代から浜名湾遊泳協会に属するほど、水泳好きで、

韓国反日暴動1907＝ 9歳：この年、嘉納治五郎が、近代オリンピックの創設者クーベルタン男爵の勧めで、オリンピック参加をめざす大日本体育協会を設立、体協の前身とはいえ、オリンピック組織委員会(JOC)そのものであった。

明治天皇没・1912＝14歳：この年、日本が初めてオリンピックに参加(第5回ストックホルム大会)。

民本主義・・1916＝18歳：第一高等学校に入学。
大暴落・・1920＝22歳：この年、アントワープでの第7回オリンピック大会に、水泳選手が初参加、

原敬首相暗殺1921＝23歳：卒業して、東京帝国大学法学部政治学科に進む。
護憲三派圧勝1924＝26歳：この年の、第8回オリンピック大会(パリ)で、高石勝男が、日本の水泳選手として初入賞。直後に、大日本水上競技連盟(旧日本水連)が創立される。卒業すると、{朝日新聞}に入社し、編集局政治部に所属、部長だった緒方竹虎の薫陶を受け始める。旧日本水連のメンバーにもなり、

治安維持法・1925＝27歳：東京都心に専用プールを造ることを企図、まず、別の独立組織であった学生水連、遊泳協会との統合に尽力し、旧日本水連が名実ともに唯一の代表団体になることに成功、

共産党事件・1928＝30歳：*第10回オリンピック(アムステルダム)終幕と同時に、今回のロサンゼルスオリンピックに向けた対策を考え始め、第一弾として、{朝日新聞}幹部に働きかけ、ワイズミュラーはじめ、アムステルダム大会の優勝選手を招待し、朝日国際水上を開催し大盛況。200m背泳で優勝した入江稔夫が、日本人初の公認世界記録。

海軍軍縮条約1930＝32歳：旧日本水連専務理事となって、プール建設の資金集めに駆け回り、神宮プールが完成、極東大会を開催し、初めての機関誌{水泳}も発刊。

満州事変・・1931＝33歳：翌年のロサンゼルスオリンピック大会に向けて、神宮プールでの第1回日米対抗水上大会開催を決行、予想外の大成功を収め、以後の国際競技運営の標準になるとともに、キップス米監督と盟友になる。

五一五事件・1932＝34歳：水泳監督として参加した第10回オリンピック大会(ロサンゼルス)は、日本選手が陸上、馬術などでも大活躍、日本スポーツ界が世界の檜舞台に躍り出た画期的な大会になった。

帝人疑獄事件1934＝36歳：ベルリンでの第11回オリンピック大会本部役員(団長は平沼亮三)、前畑秀子の伝説的優勝。大会前に開かれたIOC総会で、今回は、ヘルシンキとの決戦投票に勝利した東京で開催することが決まった。

二二六事件・1936＝38歳：アジアでの開催を切望し、東京市長に激励と希望の書簡を送ってくれたクーベルタン男爵が死去。

日中戦争始・1937＝39歳：カイロでのIOC総会で、日本の準備状況の説明にあたった嘉納治五郎委員が、帰途、氷川丸船上で急死。その後、国内激論の後、東京大会返上をIOC本部に打電し、同時に、札幌冬季オリンピックも中止になった。

健保+総動員 1938＝40歳：
第二次大戦始1939＝41歳：旧日本水連理事長になる。
大政翼賛会・1940＝42歳：東京で開催された東亜競技大会に、ハワイ代表日系チームを率いて、カツミ米谷が来日、盟友になる。

日米開戦・・1941＝43歳：この年、地元浜松で、古橋広之進が、100m、200mに全国学童新を出し、旧制中学から引っ張りだこに。
・・・・・1942＝44歳：{朝日新聞}政治経済部長。
創価学会検挙1943＝45歳：
敗戦・・・・1945＝47歳：敗戦時、古橋は、学徒動員先から戻り、日大水泳部に入る。{朝日新聞}編集局次長。*名称が変わった日本水泳連盟(日本水連)理事長、敗戦の悲惨な状況が、クーベルタン男爵が近代オリンピック創設する動機になった普仏戦争に惨敗後のフランスの国情に似ていると、早くも、東京でのオリンピック開催を思い描く。

新憲法公布・1946＝48歳：日本体育協会(体協)の常務理事、
新憲法施行・1947＝49歳：{朝日新聞}取締役、東京本社代表になる。GHQから明治神宮プールの使用許可を得て開かれた日本選手権で、古橋が戦後初の世界新記録、学生選手権でも橋爪四郎がデビューするなど、世界新ラッシュ、

極東裁判判決・1948＝50歳：水連会長になる。ロンドンオリンピック大会にぶつけて、水泳の日本選手権を開催、オリンピックでは、キップス監督率いる男子チームが、史上初の競泳全種目優勝したが、古橋は2種目でそれを上回り、

三大事件・・1949＝51歳：{朝日新聞}常務取締役。キップスの尽力で、日本スポーツ界の先陣を切って、国際水泳連盟に完全復帰。ロサンゼルスで開催の全米選手権に日本選手を派遣すべく、GHQと交渉、カツミ米谷ほかの尽力もあって、遠征が実現、日本選手独演会のようになって、日本人を狂喜させ、世界のスポーツ界の態度も一変、翌年にかけて、日本の競技団体は一挙に国際的復帰、戦前にオリンピックが開催できなかった3都市のうち、ロンドンはすでに開催、翌年には、ヘルシンキも開催で、その次は、東京でという声まで出始める。

独立回復・・1951＝53歳：この年、東竜太郎がIOC委員になる。体協専務理事、JOC総務主事になり、
メデー事件・1952＝54歳：26年つとめた{朝日新聞}を退社。戦後初の参加となったヘルシンキオリンピック大会で団長を務める。
テレビ放送始・1953＝55歳：*ヘルシンキオリンピックの組織委員会委員長でIOC委員のフレンケルが突然来日、東と三者会談し、オリピックの東京開催を強く勧められ、東とともに東京招致を決意、安井誠一郎都知事を訪問、さらに岸首相を訪ねて快諾を得たことから、「オリンピック招致」が公然のものになった。

55年体制始・1955＝57歳：東京での第3回アジア大会組織委員会事務総長になると、神宮競技場を拡張整備して、国立競技場とし、IOC総会を開いて、東京の開催能力を喧伝、オリンピック青年協議会も発足させる。

国連加盟・・1956＝58歳：第16回メルボルンオリンピック大会日本選手団団長の際には、現地でさまざまなエピソード、
なべ底不況・1957＝59歳：日本水連会長を退任。東京オリンピック後援会の不正の噂が起こり、内偵して摘発などするうち、
インスタントラーメン1958＝60歳：新聞報道され、体協内にあった後援会事務所が、アマチュアスポーツの本山として初めて東京地検の家宅捜査を受ける。東京オリンピックに向けて、資金財団を創設したのはじめ、国、都とともに体制固め、

美智子妃・・1959＝61歳：ミュンヘンでのIOC総会では、平沢和重の名プレゼンテーションもあって、対立候補に圧勝し、第18回オリンピックの東京開催が決定するが、安井都知事が勇退。社会党から有田八郎たち、国民に亀裂が生じるのはよくないと逡巡、結局、東竜太郎かつぎだしに加担するも、スジを通したため自民党幹事長の寝業師川島正次郎の不興を買い、招致実行委員長になった周知の北島義彦都議は各国訪問中に、体を壊して急逝。

安保闘争・・1960＝62歳：
タイタイ病始・1961＝63歳：日本水泳連盟名誉会長。JOC会長選挙に当たり、意見のあわない大蔵官僚出身の政治家で、東竜太郎の後任の体協会長の津島寿一を候補にたてて成功、自らは事務総長に就任、スポーツ少年団を発足させる。

全国総合計画1962＝64歳：ジャカルタでの第4回アジア競技大会に向かったところ、インドネシア政府が台湾とイスラエルに招待状を出していないというルール違反が判明、その対応に迫われ、オリンピック担当大臣川島による津島・田畑体制壊しの陰謀も絡んでひと騒動、結局おとがめ無しで済んだが、

TV宇宙中継始1963＝65歳：オリンピック前年に、世界的規模で選手強化の実績をはかるべく、「東京国際スポーツ週間」を開催、マスコミが名付けた「プレオリンピック」の名が定着し、以後の、各都市はこれにならってプレ大会を開くようになる。なお、都知事選の資金の使途をとがめる田畑への川島の圧力は収まらず、アジア大会での発言をとがめられて、ついに、事務総長の座も去ることになった上、東京オリンピック選手強化対策本部常任顧問の肩書も奪われて、無役になる。それでも、理解する人たちから丁重に扱われ、車で選手を激励して廻り、

東京オリンピック 1964＝66歳：*東京大会は無事開催され、大成功。この間、後進を指導して、自ら名づけた“社会体育”の協議会を創設させ、その育成を図り、総評はじめ労働組合関係者共同の労働者スポーツ協会の創立に協力して、第一回の労働者スポーツ祭典が開催され、以後毎年開催となる一方、巢鴨に東京スイミングセンターの建設を計画、

霞ヶ関ビル・1968＝70歳：実現させた。
全共闘ビル・1969＝71歳：勲二等瑞宝章。
大阪万博・・1970＝72歳：札幌オリンピック組織委員会メンバーとして、事務総長佐藤朝生(東京の組織委員会では次長)を支え、
ドルショック・・1971＝73歳：日本体育協会副会長。

日中国交回復1972＝74歳：札幌での冬季オリンピック大会が無事開催され、大成功。
石油ショック1973＝75歳：日本オリンピック委員会(JOC)委員長。晩年は病魔に襲われて歩行もままならなくなり、
JALバゲッジック1977＝79歳：JOC名誉委員長。IOC功労章(銀章)を受けて、
革新大敗北・1979＝81歳：
・・・・・1984＝86歳：没した。
李代哲雄「評伝 田畑政治 オリンピックに生涯をさげた男」、